



第 3 号

平成16年 3 月 1 日

発行所

福島県立二本松工業高等学校同窓会
〒964-0937

福島県二本松市榎戸1丁目58ノ2
TEL 0243-23-0960
FAX 0243-22-7388

発行者 佐藤昭次

印刷 株式会社丸井工文社

福島県立二本松工業高等学校

同窓会 会 報

校 歌

詞 草野心平
曲 小山清茂

一日輪は 天にかがやき
阿武隈は 光る動脈
ここ榎戸の 美しき地に
日毎集る われら若人
腕組まん ともに
学ばなん ともに
真善美 ひたに求めて
ああ母校 二本松
われらは愛す
われらが母校

CONTENTS

同窓会会長挨拶	2
学校長挨拶	3
学科編成について (パンフレットより)	4
応援歌作詞家の寄稿	6
同窓会だより	7
母校だより	8



同窓会会長挨拶

佐藤 昭次



○プロフィール○

昭和41年度卒業・土木科2期生。10年間の県職員生活を経て、現在株式会社佐藤組代表取締役社長。総合建設業として、道路、河川、下水道、建築などを施工。“地域と共に生きる”を大切にしながら、社員と共に、鋭意努力中！

「キラリ輝く熱意」

会員の皆様にはお健やかに過ごしの事とお慶び申し上げます。

本会の運営につきましては日頃から皆様の御指導と御協力を賜わりまして心より御礼申し上げます。

本校は昭和三十七年に開校、まもなく四十三年になります。その間工業デザイン科も新設され、男女共学化もなされてきました。その時代の要請に応えながら今日に至っております。

昨年度は四十周年記念式典が行な

われ、同窓会では記念事業として、校訓碑を建立いたしました。

当地方にとって、又産業界にとっても、なくてはならない学校に成長しております。

この四月からは学科の改編が行なわれると同時に、実習棟も改築されます。中味の充実した特色のある、すばらしい姿で新たにスタートされます事、我々同窓会一同大変期待して楽しみに待っております。

少子化からくる生徒数の減少、それにめまぐるしく変化する時代の流れに、この改編は射っており、各

方面から注目される事と思います。社会的なニーズにも応えながら、学ぶ生徒の自主自律を助けるシステムが組み込まれました。

此の度の改編の検討を重ねてこられました先生方のご苦労には、改めて敬意を表します。

さて、いつになれば景気が上向くのか不安定な日本経済にも、ようやく回復の兆し？が見え始めたと言われています。緩やかな回復局面に戻った。天気で表わせば今年は曇りのち晴れ。長びくデフレにも明りが見える。この様な言葉の端々には、希望の光が差し始めています。しかし、地方に住んでいる我々にはどうでしょうか？

まだまだ景気回復の実感はありません。

こう言う時こそ、しっかりと目標をたて、そこに一丸となって進む事、そう信じながら新しい年のスタートといたしました。

厳しい中にも伸びている企業はいっぱいあります。人と違う事を信念をもつてやる。他はまねの出来ない独自の強みを充分に発揮している。ニーズに合ったダントツなものをめ

ざす。即実行するスピード。効率化への徹底。等々すべてにおいて何が

キラリ輝く熱意が感じ取れます。ケータイ、デジタル、車業界においては、需要が増し、製造部門で活気づき、そして設備投資が主導する回復へと、向かいつつある様です。ぜひ見習って邁進したいと思っております。

昨年は、学校評議員の立場で二度ほど授業参観をさせて頂く機会がございました。習熟度別授業を取り入れたり、授業形態指導方法も細部に亘り工夫が見られ、それが生徒にも大変評判が良いとの事です。資格取得にも率先して指導に当たり、その粘り強い先生方の努力が実って、この厳しい時期にあつても他校に比べて、就職率は良い結果が出ております。又、「学校に行こう」など開かれた学校づくりも推進されており、一般者の参観する機会も取られております。

松工は学科改編と共に新しくなります。三年に一度、くろがね祭も行なわれております。どうぞ皆さんも一度母校を訪問され、その進歩を目のあたりにご覧下さってはいかがでしょうか。是非おすすめていたします。会員皆様方の益々のご活躍、ご健康を御祈念申し上げまして、挨拶いたします。

学校長挨拶

秋山 功一



○プロフィール○

いわき市出身。専門教科 英語。喜多方高、小名浜高、勿来高、遠野高、県南教育事務所、勿来工高、いわき海浜自然の家、湖南高を歴任され、平成14年4月本校に着任、現在に至る。趣味は自然散策(観察)。生活信条「凡事徹底」。著書『花ある記』

「守成」

同窓会の皆様には、本校教育発展のために、日頃から協力ご支援を賜り感謝申し上げます。昨年度は、本校創立四十周年記念式典を挙げるに当たり、校訓碑の寄贈をはじめとして何かとご支援をいただき重ねて感謝申し上げます。お陰様で本日に第四十回卒業式を迎え、新たに同窓生を送り出すことになりました。よろしくお願い申し上げます。

ある書物によると、見識度量が余人に超越して、英主として評判の高かった中国唐王朝の第二代皇帝太宗は、ある日家臣に向かって事業を始

めるのと、すでにできあがった事業を守って失わないようにするのは、どちらが困難であろうかと尋ねました。ある者は、無から有を生み出すのだから当然始める方が難しいと答え、ある者は過去の幾つもの王朝が能力の乏しい為政者によって守りきれずに倒れたように、守ると言うことの方が難しいと答えました。父の創業に加わり、その後を受けて治政良く守っていた太宗は、その二つの意見に対して、「すでに創業の時代は終わり、その困難は過去のものとなった。今は太平になった世の中を守るべき時代であり困難の真つ最中である。よって、心して守りの

困難に打ち勝つ時である」と言ったそうです。

このように長い伝統を守り抜くことは大変荷が重いものです。同窓の方々が鋭意築き上げてきた伝統を守り、また近年の少子化による学級減をはじめ、工業教育の様々な課題をいかに解決し、新たな松工の伝統を積み上げていくか、重い課題ではありますが、他校には負けない特色ある松工としての存在感を示すために、取り組むべき大事なことであります。

このような中で、平成十六年度入学生より、皆様が学んできた従来の歴史ある五学科の特色を生かしつつ、機械システム(二クラス)、情報システム(二クラス)、都市システム(一クラス)の三学科に改編をいたすことになりました。改編の主な特色として、二年次より希望するコースに別れて学習する形態を取り、科を超えて選択できる科目、コースを超えて選択できる科目、そして、進学をより可能にするため普通科目と専門科目との選択など、大幅な選択制を導入したことです。更に、学科改編と同時に長年の懸案であった実習棟の改築が認められ、今年の中頃から解体工事が始まり、一期工事、二階建て延べ面積三千二百五十一平米、二期工事、平屋建て延べ面積三百三十一平米の規模で建設を行い、平成十八年度まで

に完成する予定になっております。完成後には新しい実習棟で、実習などの学習ができ、今まで以上に成果が上がるものと期待をするところがあります。

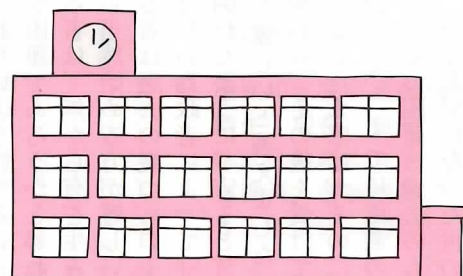
今は昔：経済大国日本、「豊か」の印象減、「勤勉」も初めて五割を割ると言う見出しで、「日本は経済的に豊かで国民は勤勉」かつてのこんな日本のイメージが国内外で急速に薄らいでいる。自国の問題点も「就職難、失業」が激増と「五カ国青年意識調査」の結果が一月の新聞に出ておりました。経済低迷が日本の若者の意識に影を落としているような気がします。最近のニュースによると、やっと製造業の業績好転、景気回復傾向の上方修正等の発表がありましたが、高校生を取り巻く環境は厳しく就職の難しさは相変わらず続くものと予想されます。このような中でも工業高校に対する求人倍率は他の高校に比べればまだ高い数値を示しております。これは工業高校が一貫して「ものづくり教育」を推進し、地域産業界に多くの人材を輩出してきた結果だと考えます。

今後も、松工の新たな取り組みにご理解をいただき、更にご支援を賜りながら本校教育を推進して参りたいと思います。

学科編成 について

学科改編により松工が平成十六年度入学生より次のように変わります。

まずはパンフレットの内容を掲載いたしますのでご覧下さい。



技術
が私を生かす道

松

工が平成16年度から変わります！

福島県立二本松工業高等学校

機械システム科 | 情報システム科 | 都市システム科

〒964-0937 二本松市柳戸1-59-2 Tel 0243-23-0960 Fax 0243-22-7388
http://www.nihonmatsu-th.fks.ed.jp テレホンサービス 0243-62-3330

松工からのメッセージ

自分の「こうなりたい」を実現する。心の奥の願いを先取りする。それが新しい松工です。技術者への尊敬を持ち良い仲間とともに真剣に学ぼうとする。そんなあなたに松工は応援を贈しません。

ものづくりへの^{こだわり}の拘りを持ち続ける人材の育成に努力します。

高校生のつくり
南大会優勝、
東北代表として
3年 機械科 遠征優勝
全国大会出場

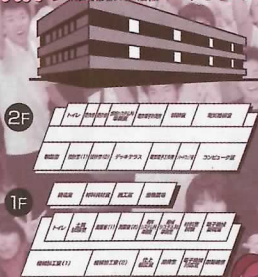
技術

これが

松工の特色となります。

時代のニーズに合った新しい
や学科を学習内容に組み込まれました。
自分の進路に合わせて2年次には
コースを選択します。

A.1 実習棟が新しくなります！



Q.どんな
高校に
変わるの？

A.3 制服も変わります！

A.2

科・コースの枠を越えた選択教科・科目で
現代の工業教育のニーズに応えます。
現在の4学科から3学科9コースになります！

機械システム科 80名

情報システム科 80名

都市システム科 40名

- テクノカルコース
プログラミングコース
ロボット制御コース
- エレクトリックコース
コンピュータコース
電気デザインコース
- 都市エンジニアコース
環境デザインコース
- 「情報化社会への対応」 ★プログラミング技術の習得
★マルチメディアへの対応の学習
- 「車社会への対応」 ★自動車工学の基礎的な環境保護や
省エネルギーについての学習
- 「実践技術者への対応」 ★工業数理基礎、数値、人工工学の学習
- 「国際化への対応」 ★工業技術英語の学習
- 「大学進学への対応」 ★普通教科、国・数・英・社・理・家庭・
美術の選択教科一冊の充実

2年次に進路に合わせてコース分けをします。

機械システム科
80名募集

テクニカルコース
機械の製作や製作などの「ものづくり」の基礎と技術の習得を目的とします。

プランニングコース
機械や工業の設備設計の知識と技術の習得を目的とします。

ロボット制御コース
コンピュータで制御された機械装置の製作や設計の知識と技術の習得を目的とします。

主な就職先
■製造業関連企業
■自動車産業系等

主な就職先
■設備部門企業
■大型工業の製造ラインの設備

主な就職先
■FA関連企業
■機械制御工事業

全コースでチャレンジできる取得資格
■2級電子技術士
■電気取扱者試験(乙種全種)
■情報技術検定
■計算技術検定

ものづくり基礎…「どのようなものも、いかに作るか」を視点に、ものづくりで得られる様々な工業技術に関する情報を知識化する。

設計・製図……設計と製図に関する基礎的な知識と技術を活用して、CADを利用しながら具体的な機械製品を設計する。

電子機械……産業用ロボットを想定し、これらに関連する応用事項について学習する。

電子機械・応用……「電子機械」を基礎にコンピュータやロボットによる制御、工業の自動化等について学習する。

特色ある教科

選択で普通教科の充実を図ります

- 進路希望や、興味・関心に応じて、さまざまな科目選択ができます。
- より高度な教科指導で、いき活き学習します。

2年次に進路に合わせてコース分けをします。

エレクトリックコース
電気について学び、電気工事士試験の受験資格を得ることができます。

コンピュータコース
コンピュータを駆使して、多くのソフトに詳しく、さまざまな業務の効率化を図ります。

情報デザインコース
コンピュータを活用したデザイン技術の修得を目的とします。

デザインコース
ものづくりにデザインを活かす技術の修得を目的とします。

チャレンジできる資格
■第2種電気工事士
【1級電気工事士(乙種全種)】
■第1種電気工事士
【2級電気工事士(乙種全種)】
■第3種電気主任技術者
【2級電気主任技術者(乙種全種)】

チャレンジできる資格
■基本情報技術者試験
【国家資格】
■システムアドミニストレータ
【国家資格】

チャレンジできる資格
■カラーコーディネーター
DTP検定
DTP検定
レタリング検定
パソコン利用技術検定

全コースでチャレンジできる取得資格
■電気取扱者試験(乙種全種)【国家資格】
■情報技術検定
■計算技術検定
■工業担任者試験【国家資格】

情報システム科
80名募集

エレクトリックコース…実験経験を積み、第3種電気主任技術者を取得できる。

マルチメディア応用…マルチメディア技術を有効に活用した情報処理システムの設計に関する基礎的な知識と技術を得る。

ハードウェア技術…コンピュータの仕組み、データ通信、ネットワーク技術、制御技術などのハードウェア技術の基礎を習得する。

プログラミング技術…プログラムを実際に関連する能力を育てる。

ソフトウェア技術…オペレーティングシステムやアプリケーションソフトの基礎的な知識と技術を得る。

人間工学…人間の身体やその機能について学び、工学に活用する基礎について学ぶ。

特色ある教科

進学に有利です

- 本校の特色あるカリキュラムを生かし、4年制大学、短大、高等専門学校、専修学校等への進学が有利に望めます。
- 推薦入学ができる4年制大学が多数あります。

2年次に進路に合わせてコース分けをします。

都市システム科
40名募集

都市エンジニアコース
都市づくりの設計、施工、維持管理などのスペシャリストを育成します。

都市プランニングコース
●緑化・バイオ・多自然型緑地工学
●エネルギー(電力・熱力)
●都市計画・都市設計・まちづくり

全コースでチャレンジできる取得資格
■土木施工技術者
■測量士
■測量実習技術検定(1級～3級)
■危険物取扱者(乙種全種)
■小型車両系建設機械
■パソコン利用技術検定
■計算技術検定

測量……CADを使い、地図作りの基本を学ぶ。

土木施工……橋梁建設機械や、工法の基本を学ぶ。

土木基礎力学……設計計算や、水や土の基本知識を学ぶ。

社会基礎工学……都市計画プランニング。

スマートシステム……GPS測量の最新技術を学ぶ。

特色ある教科

少人数による、普通教科の徹底指導を行います

- ティームティーチングによる指導で、実力アップします。
- 少人数の教科指導体制で、わかる授業を展開します。
- 自分の能力に応じて楽しく学び、確実に進路目標を達成します。

卒業後の進路モデル
どんなところに就職・進学できるの?

機械システム科

自動車産業
製造業関連企業

情報システム科

電力・電気・電子関係企業
木工・デザイン制作企業
コンピュータ関係企業

都市システム科

都市計画
測量設計企業
公務員
道路橋の建設工事
人に優しい都市づくり

進学について……

主に、国立・私立・工業系4年制大学、高等専門学校、専修学校、推薦入学、AO入学など多数。



桂沢 通

プロフィール

昭和40年度卒業機械科2期生 現在、コマツ福島株式会社郡山支店営業担当課長。運転講習会などもされながら奮闘中！

母校の思い出と

応援歌奮起の誕生秘話

春の桜、秋の菊と提灯祭。秀峰安達太良山を眺め生まれ育った二本松。昔から乳首山と呼ばれ雄大さは父であり形象は母なる山と思われています。その二本松榎戸の高台に工業高校が創立しての二年目に入学した私達は、当初岳下小学校の仮校舎での授業でした。実習は計算尺、体育はマラソンが多かった記憶があります。そのマラソンコースは生家に近く幼い頃からの遊びのエリアだったので厳しい喜古先生の目を盗みチョット近道したこともありました。創立間もない我校は規律の厳しさと徹底した生徒指導の丹治先生が思い出されます。全員坊主頭、リトマス試験紙みたいな紙を舐めさせ、ポケット裏返しの際煙検査、自分では悪い事してなくとも先生方は怖い存在でした。待望の新校舎が完成し全員机と椅子を持ち岳下小学校から榎戸までの引越行列の沿道には顔見知りの人が多く少し照れ恥ずかしい思いもしました。校舎は近代

的な建物でしたがグラウンドは未完成。それでも好きな野球部へ入りブルドーザーで押した程度のグラウンドに一生懸命レーキをかけ汗を流しました。当時怖かった主将の高橋、佐久間先輩達も練習が終われば良き兄貴分。三年生になって正式に硬式野球部となり最初に背番号4をもらった時はとても嬉しかった。夏の大会前に朝礼で野球部全員前に出ての激励会で校

長先生から「甲子園目指して頑張つて欲しい」と言われた時は全員「ブッ」と苦笑いした事もありましたね。そんなヨチヨチ歩きだった松工野球部も歴代先生方の御指導と後輩達の頑張りで県北のみならず県大会、東北大会に出場するチームに成長され、とても頼しいと思っています。福島在住三十三年勤務の都合上なかなか応援に行けなく申し訳なく思っていますが、数年前我息子が県工野球部在籍中のあづま球場で松工―県工戦があり保護者会の三塁側にいても気になるのは母工の一塁側スタンド。複雑な気持ちで応援していた時、松工応援団から流れた応援歌『奮起』の合唱を聞かされた時には、大きな声で歌っていた様な氣もしました。その応援歌を作詩するに至っては、二年の時校内募集があり幼い頃から家庭内で音楽にふれる機会が多いのと中学三年生の頃クラスの歌を作ったが採用されず悔しい思いをした経験から今度は本気で

詩を書いてみようと思いました。しかし文才の無い私には言葉が見つからず中途諦めかけ石川啄木の詩集を読んでいた。故郷大好き文豪と想いの共通性を感じ繰り返し読んでみたものの、情景は浮かぶが意味不明の言葉があり教員の義兄に聞きながら我故郷の象徴安達太良山と阿武隈川を頭にし五七調にまとめ見てもらい手直して完成した次第です。詩全体十代の若者が歌うには固い感じもしたし、審査員でもある国語担当の五十嵐義雄先生からも「お前の語学力からみても、あの言語は出ないだろう」と不思議がついていましたよね。当時安達高校と福島西女の合唱を日本一にし「合唱王国福島」を築きあげた五十嵐庸夫先生によって力強いメロディーが加わり『奮起』が完成した訳です。少し意味不明な言葉とスローテンポの歌は最近の若者に受け入れられるだろうか不安はありますが永く応援歌として歌い続けられる事を希望しております。

応援歌 奮起

1、安達太良山の 秀峰に
かかれる紫雲 風を呼び
蒼龍たわみ 時到来
今ふるいたつ 松工の
勇者の姿 ここにあり

2、阿武隈川の 激流に
不動の巖 波を呼び
青潭渦巻き 時到来
今ふるいたつ 松工の
勇者の姿 ここにあり

桂沢 通 作詞
五十嵐庸夫 作曲



平成15年度 役員一覧

役 職	氏 名	卒年	卒科
会 長	佐藤 昭次	昭41	土
	佐藤 忠司	昭40	土
	津田 吉子	昭48	デ
副会長	野地 勇雄	昭43	電
	丹治 茂雄	昭40	機
	大内 正人	昭44	電
監 事	鈴木 昭市	昭49	土
	菊地 清義	昭44	電
	本多 真道	昭42	土
会 計	野地 一司	昭44	機
	山川 博徳	昭55	土
	丹野 勇弥	平7	土
理 事	菅野 吉三	昭42	機
	星 光	昭42	機
	佐藤 智子	昭47	デ
	半澤 秋子	昭48	デ
	佐々木久美子	昭57	デ
	尾形 巳芳	昭47	電
	鈴木 新栄	昭57	機
	渡辺 和成	昭39	機
	大内庄五郎	昭41	子
	安齋 喜八	昭42	土
	朝倉 宏揮	昭62	土
	阿部 昭一	昭42	土
	高橋 薫	昭49	機
	渡辺 恵美子	昭57	デ
	高橋 周平	平5	子
	大内 友子	昭59	デ

顧問 鈴木清治 (初代会長)
阿相利和 (前会長)
秋山功一 (母校校長)

機械科A組 吉田 孝英
機械科B組 川越 満
電気科 安齋 雄一
電子科 高橋 圭
土木科 遠藤 旭
工業デザイン科 渡邊佳恵子

第三九回同窓会入会式は三月一日、母校体育館で行われました。佐藤同窓会会長より次の皆さんが幹事に任命されました。よろしくお願い致します。

平成十五年度同窓会総会は秋山校長先生方々のご臨席を賜り、七月二十六日(土)ウエディングパレスかねすいで行われました。収支決算・予算は下記のとおりです。役員については前年度に引き続いて承認されました。総会後、なごやかに懇親会が行われました。



総会報告

平成15年度 同窓会収支予算書

1. 収支の部 1,879,000円

科 目	14年度予算額	15年度予算額	増 減	備 考
会 費	1,105,000	1,070,000	△ 35,000	214人×5,000円
入 会 金	454,000	398,000	△ 56,000	199人×2,000円
雑 収 入	45	442	397	預金利息等
繰 越 金	346,955	410,558	63,603	
計	1,906,000	1,879,000	△ 27,000	

2. 収出の部 1,879,000円

科 目	14年度予算額	15年度予算額	増 減	備 考
会 議 費	250,000	230,000	△ 20,000	役員会、同窓会総会
行 事 費	100,000	100,000	0	入会式
通 信 費	100,000	100,000	0	ハガキ、切手
会 報 費	300,000	400,000	100,000	会報発行費
慶 弔 費	100,000	80,000	△ 20,000	香典、その他
記念品費	210,000	250,000	40,000	卒業記念品(パンダー)
後 援 費	550,000	300,000	△ 250,000	激励金、広告
事業積立金	200,000	300,000	100,000	
事 務 費	80,000	100,000	20,000	事務用品等
予 備 費	16,000	19,000	3,000	
計	1,906,000	1,879,000	△ 27,000	

歳出予算科目に過不足が生じたときは、会長に限り各科目間において流用することができる。

平成15年度 同窓会収支決算書

1. 収支の部 1,899,976円

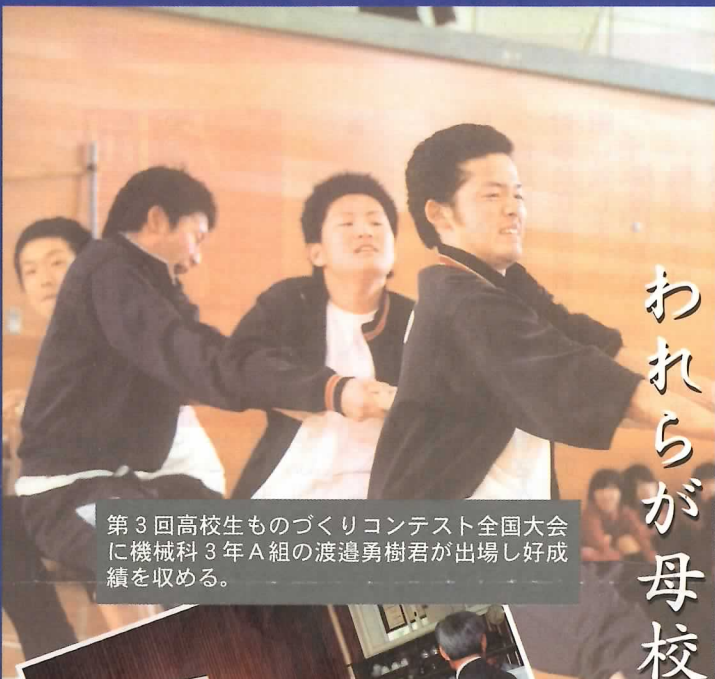
科 目	14年度予算額	14年度決算額	増 減	備 考
会 費	1,105,000	1,095,000	△ 10,000	219人×5,000円
入 会 金	454,000	458,000	4,000	229人×2,000円
雑 収 入	45	21	△ 24	預金利息等
繰 越 金	346,955	346,955	0	前年度繰越金
計	1,906,000	1,899,976	△ 6,024	

2. 収出の部 1,489,418円

科 目	14年度予算額	14年度決算額	増 減	備 考
会 議 費	250,000	78,940	171,060	役員会、同窓会総会
行 事 費	100,000	18,000	82,000	入会式
通 信 費	100,000	30,000	70,000	ハガキ、切手
会 報 費	300,000	306,493	△ 6,493	会報発行費
慶 弔 費	100,000	32,200	67,800	香典、その他
記念品費	210,000	194,880	15,120	卒業記念品
後 援 費	550,000	304,735	245,265	激励金、広告、くろがね祭
事業積立金	200,000	500,000	△ 300,000	
事 務 費	80,000	24,170	55,830	事務用品
予 備 費	16,000	0	16,000	
計	1,906,000	1,489,418	416,582	

3. 残 額 410,558円

母校 だより



第3回高校生ものづくりコンテスト全国大会に機械科3年A組の渡邊勇樹君が会場好成績を収める。

われらは愛す
われらが母校



平成15年度山梨県精進湖で行われた全国高等学校カヌー選手権大会に3年湯田克也君、3年服部純也君、3年尾形信宏君、3年朝倉義貴君、2年円治康治君、1年斎藤駿介君が会場した。



第58回東北水泳大会の200mと400mの個人メドレーに土木科2年E組の松山輝貴君が会場した。



編集後記

あわたたしい社会の流れの中で、教育界の中でも改革の一環として学科改編が行われます。

同窓生の方々にも現在の松工の様子を少しでも知っていただく為に、今回の様な内容を組んでみました。

前号の座談会の内容に対して今号は、今後の松工の一つの道しるべとなるものであります。

常に回りからの暖い応援や助言によって少しずつ形は変わろうとも、松工の精神は受け継がれていくものであると信じて止みません。

また、偶然にも桂沢さんについては土木科の建設機械の運転資格取得の際に学校にいられたので、記事を書いて頂くことができました。その時、桂沢さんが、「世の中は広いようで狭いものですね。」とおっしゃっていました。

事務局では多数の同窓生に会報を読んで頂ける様、準備しております。クラス会や社内の同窓会などにご活用ください。

会報編集委員 鈴木 新栄

高橋 周平

本田 正

大柳 正三